

# 骨粗<sup>しょう</sup>鬆症の治療を始める方へ

◎骨粗しょう症の薬の中には、歯科の治療で顎骨壊死(がっこつえし)を生じる可能性がある薬がありますので、薬を服用される前および服用中は必ず歯科で口腔内の管理を受けましょう。

◎顎骨壊死は口の中のばい菌の感染とも関連するため、口の中の衛生状態を清潔に保つことが発症の予防に非常に有効です。

# 顎骨壊死を生じる可能性のある薬剤

アクトネル錠

ダイドロネル錠

フォサマック錠

ベネット錠

ボナロン(錠・経口ゼリー・  
点滴静注)

ボノテオ錠

リカルボン錠

アレディア点滴静注用

ゾメタ点滴静注

テイロック注射液

ボンビバ静注

アレンドロン酸ナトリウム錠

リセドロン酸ナトリウム錠

ゾレドロン酸点滴静注液

パミドロン酸二Na点滴静注用

# ビスホスホネート系薬剤による顎骨壊死



患者の皆様へ

ここに紹介する副作用は、まれなもので必ず起こるものではありません。

骨そしょう症薬剤(ビスホスホネート系薬剤)による治療中に、ある種の医薬品、局所(あご付近)への放射線治療、抜歯などの歯科処置、口腔内の不衛生などの条件が重なった場合、あごの骨に炎症が生じ、さらに壊死する顎骨壊死がみられることがあります。

# 顎骨壊死の写真



日本口腔インプラント協会より引用

## 早期発見と早期対応のポイント

ビスホスホネート系薬剤の投与を受けていて、「口の中の痛み、特に抜歯後の痛みがなかなか治まらない」、「歯ぐきに白いあるいは灰色の硬いものが出てきた」、「あごが腫れてきた」、「下くちびるがしびれた感じがする」、「歯がぐらついて自然に抜けた」などの症状が出現した場合、すみやかに医師、歯科医師、薬剤師に相談してください。

ビスホスホネート系薬剤投与による顎骨壊死は、単独でも生じますが、以下の治療を受けている場合に生じやすいです。

- ・ がんに対する化学療法、ホルモン療法
- ・ 副腎皮質ステロイド薬の使用
- ・ 抜歯、歯槽膿漏に対する外科的歯科処置
- ・ 局所(あご付近)への放射線治療

## 重要なポイント

顎骨壊死は、特に口の中が不衛生な状態で生じやすくなります。

従ってビスホスホネート系薬剤の投与を始める患者さんは、投与前に歯科を受診し、歯ぐきの状態のチェックを受け、ブラッシング(口腔清掃)指導、歯石除去、う蝕及び保存不可能な抜歯を含め侵襲的な外科処置を済ませ、投与中も積極的・定期的に口腔ケアを受けることをおすすめします。